

伊豆のお山はロケ日和

東宝映画宮本武蔵より

「時代劇もこれで六本目なんだけど、まだ、かつらが帽子みたいな気がして、知っている人にあうと、やあってつい手が頭にいっちゃったりして困っちゃう」と、結髪さんにズラ（かつら）をつけてもらいながら、特徴のある甘い顔を鏡に向かってほころばせるのは、われらが浩ちゃんです。

唄の文句ではないけれど、♪春の伊豆路は月おぼろ、墨絵ぼかしの天城を越えて……テナ調子だった昨夜の通り、今朝はボヤーッとした空模様。それでも時々雲の切れ目から、うす日が地上の雑音をウサンくさ気にのぞいています。ここは、静岡県の温泉場で有名な……と、いうより、ロケ地ですでに知られている、伊豆長岡のロケ宿。

一代の剣聖とうたわれた宮本武蔵の若き日を描いた、東宝映画のイーストマン・カラーの大作、宮本武蔵に三船敏郎さん、許嫁の又八よりも、豪放な武蔵に純情を捧げる可憐なお通は、先日、日伊合作映画『蝶々夫人』出演の為、イタリーへ行った八千草薫さん、奔放な情熱を燃やして武蔵にせまる朱実に、岡田茉莉子さん、そして美剣士、佐々木小次郎には「始めプロデューサーの方からお話しがあつた時、大変迷ったんだよ、演技的にも、年齢的にも自分なんか足許にもおよばない人たちが、再三やっている役をやるなんて、だけど…さんざん考えた末…これはとに角、一つ試金石のつもりでベストをつくしてやってみよう」と、決心した浩ちゃんが出演する豪華なキャストです。

ロケの一日は、まだ朝も明けきらぬ鶏の声と一緒に始まります。今朝は七時出発、連日の仕事にもいささかの疲れも見せず、浩ちゃんは、パッと布団をはねのけ、洗面道具を持って露天風呂へ

「若旦那、早いですね」

「や、お早ようございます」 照明係の人にも丁寧にあいさつします。

「今日の出番は、十二時からですよ、午前中は三船さんだけですから、もっと休んでいたらどうですか」

「いや、みんな早くおきて仕事に出かけるのに、僕だけねているわけにいかないよ」

「お早よう……」 にが虫をかみつぶしたような顔をして、衣裳をつけた三船さんが出て来ました。

「お早ようございます、御苦労さまです」 武蔵と小次郎のなごやかなあいさつです。朝起きると、必ずお風呂へとび込み、ヒゲをそります。少しのヒゲもよくそっておかないと、ドーランがよくのらないからです。

「あら、鶴田浩二よ、ほら」

「浩ちゃんだわ、浩ちゃんがお風呂に入ってるわ」

「コーちゃあーん！」

「よせよ、違うったら、よく鶴田浩二に間違えられるんだけど、僕、そんなに浩ちゃんに似てるかい……」 茶目ッ気を発揮して修学旅行らしい女学生をからかっています。

「唄いの方が似てるんだぜ、♪流れ水藻の、さみしく咲いた月の入江のとなり舟…」
切切と哀感こもる『さすらいの舟唄』が遠く伊豆の山山にこだまして、聞く人の胸をとらえ、涙をさそいます。

「本番、行きます」 助監さんの声に一瞬、シーンとします。

「ヨーイ、スタート」 稲垣監督の張りのある声にジーとカメラが廻り始めました。カサコソ（これは小次郎が笹をふむ音です）今日のカットは、一乗寺下り松で、吉岡門弟と果し合いをする武蔵に、会いに行くお通は、又八に危うく捕まるところを、小次郎に救われる、という所です。又八が威猛高に、小次郎に対します。

「お、お前は誰だ、名をなのれ」

「私は誰でしょう？」 これはまたなんと新らしい小次郎ではありませんか、こんなところでクイズをやっています。

「私は、佐々木小次郎だ、動くとき切ると切ると」 ウヘッと又八は腰をぬかしてしまいます。

「入るぞー」 せつかくカメラが廻り始めたかと思うと、すぐ太陽が雲にかかります。ここで陽が出るまで、いわゆる天気待ちになります。特にこの映画は、カラーですから、一定したよい光線を必要とします。一日の中で十時頃から三時頃までの太陽の光線しか使えないのです。この間に雲でも出ようものなら、一日に五カット位しか撮れないので、この待ち時間の方が長く、この間に俳優さんはシナリオをおぼえています。

「今日の試合の相手はきまっているのかい」

「ええ、ここの消防団チームとなっていますが」 腕が鳴るのか、浩ちゃんはさかんに小次郎を象徴する刀、物干竿をびゅんびゅんふり廻し始めました。なんだかわかりますか、浩ちゃんの好きな野球なんです。(僕のチームは強いと自信のある方がいたら一つ挑戦してみたらいかかですか)

二台のジェネレーターがうなりを上げて動き出しました。サングラスをかけた助監さんたちが空を見上げています。もうすぐ太陽が出るのでしょう。

「鶴さん、わたし、お先に失礼します」

「三船さん、もう、あがりですか、おつかれさまでした」 立廻りに髪をバラバラにした三船さんです。

「あの人は子供のように邪心のない人だね、僕は好きだな、お付き合いしても気持ちがいいよ」

「鶴田さん、おねがいします」 位置がきまりました。

「ヨーイ、スタート」 カメラが快調に廻り始めました。